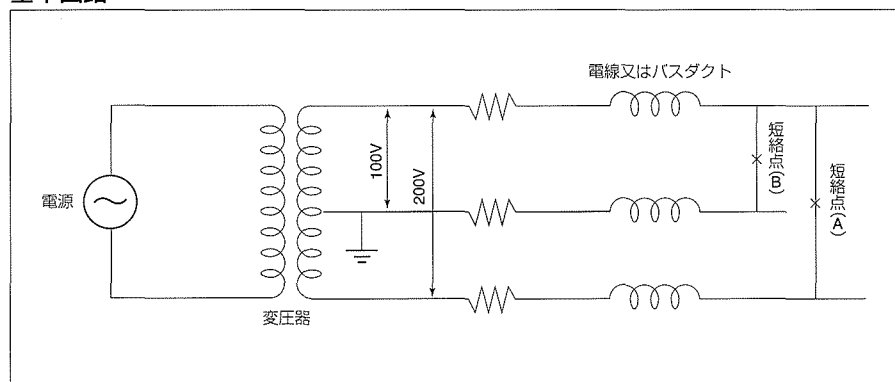


単相3線式回路における短絡電流の計算方法

基本回路



単相回路では電動機負荷の占める割合が少ないので、短絡発生時の電動機発電作用を無視して計算する。

電源の短絡容量は500MVA、X/R=25とする。(NEMA AB-1による。)

計算式

$$\text{抵抗分 } R = \left(R_T \text{ 電源総合インピーダンスの抵抗分 (付表11)} \right) + \left(2 \times R_B \text{ バスダクトのインピーダンスの抵抗分 (付表7, 9)} \right) + \left(2 \times R_L \text{ 電線のインピーダンスの抵抗分 (付表8, 10)} \right)$$

$$\text{リアクタンス分 } X = \left(X_T \text{ 電源総合インピーダンスのリアクタンス分 (付表11)} \right) + \left(2 \times X_B \text{ バスダクトのインピーダンスのリアクタンス分 (付表7, 9)} \right) + \left(2 \times X_L \text{ 電線のインピーダンスのリアクタンス分 (付表8, 10)} \right)$$

$$\text{インピーダンス } Z = \sqrt{R^2 + X^2}$$

$$\text{対称短絡電流 } I_{\text{sym}} = V/Z$$

付表11 単相3線式変圧器のインピーダンス

変圧器 容量 (kVA)	外線間 (200V)①				外線-中性線間(100V)②			
	インピーダンス(mΩ)			%インピーダンス(%)	インピーダンス(mΩ)			%インピーダンス(%)
	R _T	X _T	Z _T		R _T	X _T	Z _T	
10	84.0	36.0	91.4	2.3	29.0	11.0	31.0	1.55
20	34.0	30.0	45.3	2.3	13.0	8.50	15.5	1.55
30	20.0	22.7	30.2	2.3	8.34	6.00	10.3	1.55
50	11.2	16.8	20.2	2.5	4.60	3.80	5.96	1.50
75	7.47	12.8	14.8	2.8	3.46	2.94	4.54	1.70
100	5.60	9.60	11.1	2.8	2.50	2.20	3.34	1.65
150	3.20	6.67	7.39	2.8	1.54	1.66	2.26	1.70
200	2.40	5.40	5.91	3.0	1.10	1.40	1.78	1.80
300	1.47	4.67	4.90	3.7	0.66	1.16	1.34	2.00
500	0.88	2.88	3.01	3.8	0.40	0.84	0.92	2.33

(注意)

- ①基本回路における外線間の短絡点(A)の場合に使用する。
②基本回路における外線-中性線間短絡点(B)の場合に使用する。

付記

上記の計算法はオーム法と呼ばれる方法ですが、これ以外にインピーダンスをオームではなく「パーセントインピーダンス」で表すことがあります。この場合の換算は右記の公式によってください。

付表12 電源総合インピーダンス

変圧器 容量 (kVA)	外線間 (200V)①			外線-中性線間(100V)②		
	インピーダンス(mΩ)			インピーダンス(mΩ)		
	R _E	X _E	Z _E	R _E	X _E	Z _E
10	84.0	36.1	91.4	29.0	11.0	31.0
20	34.0	34.1	48.2	13.0	8.52	15.5
30	20.0	22.8	30.3	8.34	6.02	10.3
50	11.2	16.9	20.3	4.60	3.82	5.98
75	7.47	12.9	14.9	3.46	2.96	4.55
100	5.60	9.68	11.2	2.50	2.22	3.34
150	3.20	6.75	7.47	1.54	1.68	2.28
200	2.40	5.48	5.98	1.10	1.42	1.80
300	1.47	4.75	4.97	0.66	1.18	1.35
500	0.88	2.96	3.09	0.40	0.86	0.95

■パーセントインピーダンス

$$= (\text{オームインピーダンス} \times \text{基準VA}) \times 100/V^2$$